

日本人学校等学校採用教員募集説明会のお知らせ
(海外子女教育振興財団)

二〇二四年四月から日本人学校等に赴任する学校採用教員(本財団による支援制度を通じて日本から招聘する教員)を募集するにあたり、全国で説明会を開催いたします。詳細は決まり次第、ウェブサイトに随時、案内してまいりますのでご参照ください。

なお、本財団では学校採用教員の赴任中や帰国後、日本国内での教員採用や就職に関する幅広い情報提供等の支援も行っています。応募・問い合わせ先

海外子女教育振興財団 助成チーム

URL <https://www.joes.or.jp/zaigai/teacher>

第二十七回図書館を使った調べる学習コンクール募集要項(公益財団法人図書館振興財団)

目的

図書館の利用促進と調べる学習

の普及

募集内容

① 調べる学習部門

小学生の部(低学年・中学年・高学年)、中学生の部、高校生
の部、大人の部、子どもと大人の部。公共や学校の図書館を使って調べ、まとめた作品。調べるテーマは自由。

② 調べる学習指導・支援部門
同じく図書館を使った調べる学習の指導・支援の実践をまとめた作品。

留意点

- ・ 応募者のオリジナル作品に限る。
- ・ 他のコンクールとの二重応募は不可で、日本語の作品に限る。
- ・ 応募フォームからエントリー。
- ・ 入賞作品の著作権は公益財団法人図書館振興財団に帰属。

募集期間 九月十一日～十月二日
必着。

賞 文部科学大臣賞や優秀賞など多数。応募者全員に参加賞。

結果発表

二〇二四年一月十一日 図書館振興財団ウェブサイトにて。

応募・問い合わせ先

公益財団法人図書館振興財団

URL:<https://concours.toshokan.or.jp>

第六十九回青少年読書感想文全国コンクール実施要項
(公益社団法人全国学校図書館協議会/毎日新聞社)

趣旨

○子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、素晴らしさを体験させ、読書の習慣化をはかる。
○より深く読書し、読書の感動を文章に表現することを通して、豊かな人間性や考える力を育む。さらに、自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。

応募内容

① 課題読書
② 自由読書

応募方法

作品は学校(日本人学校、補習授業校、私立在外教育施設)を通じて提出(現地校やインターナショナルスクールのみの在籍者の応募は不可)。

*詳しい応募要項等は公式ウェブサイトをご確認ください。

応募期間(海外)九月二十九日必着
入賞発表 在籍校に通知ほか。

賞 内閣総理大臣賞など多数。

問い合わせ先(海外分)

公益社団法人全国学校図書館協

議会

公式ウェブサイト

URL <https://www.dokusyokansoubun.jp>

第四十二回「海とさかな」自由研究・作品コンクール実施概要(朝日新聞社/朝日学生新聞社)

趣旨

子どもたちの創造性を高めるとともに、日本の水産業を考え、学習する機会を与える。

テーマ 海とさかなと私たち

応募資格 日本国内の小学生児童

および海外の日本人学校の児童

応募内容

○研究部門 自由研究・観察図
○創作部門 作文、工作・絵本、
絵画

応募方法 「海とさかな」自由研究・作品コンクール係に発送。

作品応募受付期間

六月一日～十二月三十一日

賞 農林水産大臣賞、文部科学大臣賞、海洋研究開発機構理事長

賞など多数。

入賞発表 十二月上旬

公式ウェブサイト

URL <https://www.umitsakana.com>

第十五回子どもノンフィクション文学賞（北九州市）

募集内容 ノンフィクション（ルポルタージュ、旅行記、伝記、記録、ドキュメントなど、見て聞いて、調べて、自分のことばで書いてみよう。）

応募部門 小学校の部（四〇〇字詰め縦書き原稿用紙三〜二十枚）、中学校の部（同五〜五十枚）
応募期間 二〇二三年九月一日〜十一月三十日（必着）

賞 各部に、最優秀賞、佳作、選考委員特別賞、学校団体賞
結果発表 二〇二四年三月上旬、北九州市

立文学館のウェブサイトににて。
応募・問い合わせ先
北九州市立文学館「子どもノンフィクション文学賞」係

TEL 093-5711-1505

URL <https://www.kitakyushu-city-bungakukan.jp>

全国高等専門学校連合会から感謝状授与（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団（JOES）は（一社）全国高等専門学校連合会から、国立高等専門学校（高専）制度の創設六十周年を記念し、

高専の振興に貢献したことに對する感謝状を授与された。

日本人学校等の卒業生が高専に入学して活躍している例は珍しくなく、日本人学校関係等におけるJOESの支援が認められた。

九月以降、月刊『海外子女教育』は「JOESマガジン」に移行（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団が設立された一九七一年から発刊し続けてきた本誌『海外子女教育』ですが、本年八月号をもって終刊とし、九月以降はウェブ版「JOESマガジン」に移行します（弊財団ウェブサイトで運営。購読無料）。

媒体は変わりますが、記事の基本方針はこれまでの流れを受け継ぎ、動画をとり入れるなど新たな試みも加えながら読者の皆さまのご期待にこたえていく所存です。

よりよいマガジンになるよう「不易流行」をモットーに心してまいります。引き続きご愛顧のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

新規ご入会維持会員

- ・ 亀田製菓株式会社
- ・ 自由学園
- ・ 盛岡中央高等学校・附属中学校
- ・ 札幌日本大学高等学校

海外子女教育関係人事

◆就任挨拶◆

文部科学省総合教育政策局

国際教育課長

児玉 大輔



四月一日付で文部科学省総合教育政策局国際教育課長を拝命しました児玉大輔と申します。どうぞよろしくお願ひします。

在外教育施設は、国際理解教育の最前線。そこで学ぶ子供たちは、母国とは異なる文化や言語環境の中で暮らしながら、教育という営みを通じて日本とつながります。日本国内にあつてはなかなか体感することのない「マイノリティとしての感覚」は、他者に対する寛容性を養い、自らについて発信することの重要性を体得することに必ずや役立つはずです。

また、在外教育施設は所在国において日本を紹介する窓のような存在であるとともに、特に日本人学校や補習授業校は、現地の邦人コミュニティの発意によって設置され運営されてきた、いわば生粋のコミュニティ・スクールです。デリーで勤務していた時代、日本語学習者のスピリットをテストを開催する際は、日本

人学校の先生方に多大なる協力をいただきましたし、日本人学校で開催される夏祭りは邦人社会と現地の日本ファンが交流する盛大なイベントだったことを懐かしく思い出します。

在外教育施設にかかる初めての法律が成立し、それを受けた基本方針が策定されるといふ大きな節目の時期に、その振興という大役を任せて身が引き締まる思いですが、子供たちの学びを支え、先生方の教育活動を支え、もって海外で仕事に生活に奮闘する保護者の皆様のご期待に沿えるよう、微力を尽くしてまいりますと思ひます。この分野の先達の皆様には、温かなご指導と、些細なことでも結構なので様々現場の情報をご教示いただけますようお願い申し上げます。

〈略歴〉香川県高松市出身。平成十一年（一九九九年）文部省（現文部科学省）入省。埼玉県教育局生涯学習文化財課長（出向）、高等教育局専門教育課課長補佐、在インド日本国大使館一等書記官（出向）、高等教育局視学官（併）私学助成課私学助成専門官、厚生労働省医政局医師臨床研修推進室長（出向）、文化庁国際著作権室長、内閣府政策統括官付参事官（青少年企画・支援担当）（出向）を経て現職。